融合問題（漢文・古典に関する文章）②　＊

次の問題文Ⅰ・Ⅱを読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

問題文Ⅰ　八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九

銀台金闕夕沈沈
独宿相思在翰林
三五夜中新月色
二千里外故人心
渚宮東面煙波冷
浴殿西頭鐘漏深
猶恐清光不見A
江陵臥病還秋陰

さて、仲秋の名月をうたった漢詩の中で、日本人に最もよく知られて来たのは、白楽天の次の句だろう。

三五夜中　新月の色
二千里外　故人の心

当時詩人は、みやこ長安にいた。そして左遷されて湖北省の江陵にいた親友元稹に思いをはせて、この句を作る。詩題を「八月十五日夜、禁中に独り直し、月に対して元九を憶う」という。

この句はわが国の『源氏物語』須磨の巻にも引かれている。

月いとはなやかにさし出でたるに、今宵は十五夜なりとおぼし出でて、（みやこの）殿上の御遊び恋しく、所々ながめたまふらむかしと思ひやりたまふにつけても、月の顔のみまもられたまふ。「二千里外故人心。」と誦したまへる、例の、涙もとどめられず。

（月が本当に明るく美しく輝いて出てきたので、〈光源氏は〉今夜は十五夜であったよとお思い出しになって、宮中殿上の間での詩歌管弦の宴が恋しく思われて、今頃はみやこのあの方この方が物思いにふけっておいでであろうよと想像なさるにつけても、月の顔ばかりをおのずと見つめ続けていらっしゃる。〈光源氏〉「二千里外故人心。」と声に出して吟じられると、例によって涙も抑えられない。）

かつて私は『源氏』のこの一節について、次のようにのべたことがある。

「名月をながめて、白楽天が想うのは、親友元稹のことであり、源氏が想うのは、都にのこして来た女たちのことである。それは、主として男性の文学であった中国古典詩と、女性の文学である『源氏』とのちがいを示している、といえなくもない。なお、白詩のこの句は、『源氏』成立後数年、藤原公任の『和漢朗詠集』（一〇一三年成立）に採られて、さらにひろく知られるようになった。」

ところで句中にいう「二千里」とは、どれほどの距離をさすのか。唐代の一里は約五六〇メートルだとされ、二千里は一一〇〇キロほどになる。地図上で測ってみると、たしかに長安（現在の西安）と江陵は一千キロほど離れている。これを日本に当てはめれば、ほぼ東京・下関間か。

かく一千キロも離れた土地にいる二人が、同時に眺めることができる。それが天上の月である。このことが遠く離れた二人の心を、一つに結びつける。

だが、親友元稹もまた同じ時間に、同じこの月を眺めているのだろうか。

さきの二句は、全八句中の第三、四句だが、詩は末尾二句に至って、次のようにうたう。

猶お恐る　清光　［A］じくは見ざるを
江陵は卑湿にして　秋陰足る

元稹君、きみがいま居る江陵は、土地が卑くて湿気の多い所だと聞いている。そして秋になっても、陰りがちな日がつづくということだ。

遠く離れ離れになった二人が、せめて今宵はこの清らかな光を、空を仰いで共に眺めたいのだが、……。それもかなわぬ願いなのだろうか。

問一　問題文Ⅰの詩の詩型を、漢字四字で答えなさい。

問二　問題文Ⅰの詩の押韻する字を全て抜き出しなさい。

問三　問題文Ⅰの詩の中で対句になっている句を漢数字で二組答えなさい。

問四　問題文Ⅰの詩の作者について、次の問いに答えなさい。

1　作者名を漢字で答えなさい。

2　唐詩の流れを四つの時代に区分したとき、この詩の作者が生きた時代はどの時代か、漢字二字で答えなさい。

問五　問題文Ⅰ波線部「恐（ル）」とあるが、作者は何を心配しているのか、第八句を踏まえて簡潔に説明しなさい。

問六　問題文Ⅰ及び問題文Ⅱの空欄部Ａには、同じ漢字が入る。空欄部Ａに入る語として、適当なものを、次の**ア**～**エ**の中から選び記号で答えなさい。

ア　心　　**イ**　月　　**ウ**　同　　**エ**　感

問七　問題文Ⅱにおいて、問題文Ⅰの詩が①紫式部『源氏物語』にも引用されているとあるが、この詩は、②吉田兼好『徒然草』や③藤原定家『拾遺愚草』にも影響を与えている。①～③を成立年代順に並べた場合、適当なものを、次の**ア**～**エ**の中から選び記号で答えなさい。

ア　①②③　　**イ**　②①③　　**ウ**　③①②　　**エ**　①③②

問八　問題文Ⅰ・問題文Ⅱを説明した次の文章のうち、**誤っているもの**を、次の**ア**～**エ**の中から選び記号で答えなさい。

ア　問題文Ⅰの詩は、作者が故郷に残っている大切な友を思いやる内容の詩である。

イ　問題文Ⅰの作者と、離れた所にいる大切な友とを、距離を越えて結び付けるものは夜空の月である。

ウ　問題文Ⅰの詩は、日本では『源氏物語』、『和漢朗詠集』といった書物にも記載があり、仲秋の名月をうたった漢詩として広く知られている。

エ　問題文Ⅰの作者が活躍した時代（唐代）の一里は、約五六〇メートルだとされ、二千里は一一〇〇キロほどである。

融合問題（漢文・古典に関する文章）②　解答欄

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八
		・	1				
		・	2				

学年
組
番号
氏名
得点

融合問題（漢文・古典に関する文章）②　＊

〔出題の意図と留意点〕　標準テストである。白居易の律詩を用いた。唐詩の基本事項から詩人に関する知識、さらに読解と鑑賞まで問える問題をそろえた。古典に関する文章と合わせて学習することで、時代を越えて読者の心をとらえ、現在まで読み継がれてきた意味を理解し、詩人の繊細な感覚を読み取ってほしい。

☆解答例と配点

問一　七言律詩〈５点〉
問二　沈・林・心・深・陰〈５点〉
問三　三・四　五・六〈５点×２〉
問四　**１**　白居易〈５点〉
　　２　中唐〈５点〉
問五　元稹が左遷されている江陵は湿気が多いので、月光が（同じように）見えないのではないかということ。〈５点〉
問六　**ウ**〈５点〉
問七　**エ**〈５点〉
問八　**ア**〈５点〉
計50点